

# 領域6合同オンラインインフォーマルミーティング 議事録

2021/ 3 / 14 (日) オンライン開催 F1会場18:00 ~ 19:00

記録者：堤康雅

参加者：佐々木，東，北原，三澤，堤，他（敬称略）

## 0. 全体説明（東）

Zoomの使用上の注意と意思表示の仕方に関する説明

## 1. 委員について（佐々木）

- ・次期領域代表，副代表の確認
    - 次期 領域代表（2021年4月～2022年3月）  
乾 雅祝（液体金属，広島大院先進理工）  
（諸事情により変更、メールリストでの審議で承認済）
    - 次期 領域副代表（2021年4月～2022年3月）  
北野 晴久（超伝導・密度波，青学大理工）
  - ・次期運営委員の確認
    - 三澤 賢明（液体金属，岡山大，2020年10月～2021年9月）
    - 堤 康雅（超低温，関西学院大，2020年10月～2021年9月）
    - 杉本 貴則（準結晶，東理大応物，2021年4月～2022年3月）
    - 野村 温（超伝導・密度波，東理大理，2021年4月～2022年3月）
  - ・次々期運営委員の推薦・承認
    - 次々期 領域運営委員(2021年10月～2022年9月)  
現運営委員から以下二名の推薦
      - 液体金属：古石 貴裕（福井大工）
      - 超低温：石黒 亮輔（日本女子大理）
- 特に異論はなく承認**

## 2. 日本物理学会若手奨励賞（領域6）（佐々木）

- ・第15回（2021年）受賞者
  - 湯井 悟志（慶大自然セ）「超流動ヘリウム4の2流体結合ダイナミクスの研究」
  - 多田 靖啓（東大物性研）「カイラル超流動体におけるエッジカレントと軌道角運動量の理論的研究」

### 3. 学生優秀発表賞（佐々木）

- ・ 2020年秋季大会(オンライン開催) 受賞者  
液体金属分野：藤井 海里（名工大院工）  
準結晶分野：岩崎 祐昂（東大新領域）  
超低温分野：宇佐美 潤（東大低セ）  
超伝導・密度波分野：佐藤 優大（東大物性研）  
超伝導・密度波分野：太田 竣（東理大理）

-次回に関する注意事項として以下が挙げられた

領域6における「日本物理学会 学生優秀発表賞」は、口頭発表を行う学部生・大学院生の全てを審査対象としている。審査対象者の把握を円滑に行うため、領域6で口頭発表する全ての学部生・大学院生は、講演申込で次のように入力すること：(i)「講演要旨」欄の先頭に括弧書きで学年の略称(例：D3)を記入 (ii)「学生優秀発表賞の応募」の入力項目でも（「応募する」をチェックし）学年欄に学年を入力。

### 4. 学生優秀発表賞実施要綱の改定案（佐々木）

- ・ 実施要綱の以下の改定（下線部追加）が提案された  
（実施要綱より改定箇所のみ抜粋）

#### 1. 審査対象者

（ア）日本物理学会会員であり、領域6において筆頭かつ登壇者として口頭発表（原則として一般講演）を行う学部生，大学院生を審査対象とする。...

特に異論はなく承認

### 5. 領域会議(11/26)報告（佐々木）

- ・ 採択件数についての報告

#### 【全体】

招待講演：8件(物性6) (物性1件は企画講演に変更)

企画講演：32件(物性15)

チュートリアル講演：4件(物性4)

シンポジウム(一般)：16件(物性9)

シンポジウム(共催)：9件(物性6)

不採択は0件

- シンポジウム企画について以下の注意事項が述べられた
  - 内容説明が十分な提案書作成（参考文献等をつける）
  - 締切後の提案は原則認められない（運営委員に早めに知らせる）
  - 非会員を招待する必要性，理由を追記．非会員登壇者に物理学会へ入会の勧誘
  - 共催シンポジウムの活用
  - 「内容説明」の文章では、
    - テーマが何かを明確に読み取れるように説明する．
    - 全ての講演者について，講演内容とテーマとの関係を説明する．
    - 各講演者の「講演題目」でも，テーマを意識した名称にする．
  - 所属重複規制について理解する
  - 合同領域は事前連絡，確認．領域会議でも追加可能
  - 運営委員，代表は提案書をチェックする
  
- 米沢賞受賞記念講演について
  - 推薦領域または受賞者の希望領域を主領域として提案されるが，領域委員会の場で領域代表から希望があれば合同領域として認められる．
  
- 大会オンラインシステムの改善予定について
  - 様々な要望があるが，事務局は費用対効果を考えて対応する方針．
  
- 今後の大会の開催方針について
  - 現地開催場所を確保する労力の問題から，新型コロナウイルスの状況が改善したとしても，定期的にオンライン開催を行う可能性を事務局は示唆．
  
- 講演の英語対応に関する調査について
  - 各領域での講演の英語化についての議論結果が報告された．全体としては，講演の英語化に否定的な意見が多かった．
  - 報告とは無関係に，理事会からは「学会発表スライドの英語化」の強い要請．
  - 理事会は領域委員会での意見を取り入れて，理事会案を修正し，2021年秋季大会にむけて方針を出すことに．

## 6. 学会発表英語化についての理事会提案への回答（佐々木）

- ・領域会議後に修正された学会発表英語化についての(A)理事会提案に対する回答を，領域代表が用意した(B)回答案をたたき台として議論．(C)出された意見を基に領域代表が再び回答案を用意しメールリストで審議することに．

### (A)2020年12月12日理事会提案

- 1)留学生や外国人研究者の参加者への配慮
- 2)オンライン会議での海外からの参加者の可能性を広げる
- 3)学生への教育などの観点から，
  - ・物理学会としては学会発表スライドの英語化を奨励する
  - ・将来的には概要集を英語で書くことも推奨する

### (B)領域6としての回答案（たたき台）

- 1), 2), 3)の理念には賛成するが，その結果として書かれている2件には問題があり，以下のような修正をすることが望ましい。
  - ・物理学会としては，日本語による学会発表スライドには英語を併記することを推奨する
  - ・日本語による概要には英語による概要を併記することも推奨する

### (C)出された意見

- ・英語で文章を読むのは大変だが，単語なら楽であり，スライドは英語でも理解できる．
- ・慣れない専門用語は英語でも日本語でもわからない．
- ・専門英語は英語で良いのではないか．
- ・国際会議で使えるようにスライドは英語で用意している．
- ・スライドに日本語と英語の併記はスペース的に難しい．
  
- ・英語が苦手だと概要集が英語では困る．
- ・英訳した概要が別にあれば良い．
- ・文章を英語で用意していると，論文を書くときに楽．
- ・日本語と英語の併記には手間がかかる．
  
- ・物理の高等教育を日本語でやることにも意味がある．
- ・日本人の学生には英語で説明しても伝わらず，日本語で説明し直す必要がある．
- ・留学生に合わせて英語で講義をやると，日本人はついていけなかった．

- ・同じ内容の講義を日本語と英語で用意している.
- ・初学年の学生には英語化するのはかなり大変である.
- ・マスターコースの学生には日本語が良い.
- ・理事会案の「推奨する」はどのようなニュアンスか？  
→ 理事会としては強制的なニュアンスではないか.  
発表自体の英語化への準備ではないか.
- ・日本語でやる余地を残したい.
- ・「推奨する」から「奨励する」など柔らかい表現にする.
- ・やっても構わないぐらいが良い.
- ・個人により状況は違うので、全体として方向を決めるのはいかなものか.

## 7. 一般講演数の推移・概要提出率について (東)

- 領域6全体の一般講演数は大きく減少. 特に学生の講演数の減少が顕著.
- 分野別では, 準結晶分野の講演数は増加しているが, 他の分野は減少している.
- 準結晶分野では学生の講演数が大幅に増加したことが, 講演数の増加につながっている.
- 領域6の概要提出率は物性全体の平均程度で, 例年通り.

## 8. 国際会議などのお知らせ

### 1) International School on Hypermaterials のお知らせ 高倉洋礼 (北大工)

- ・2021/6/21-25にオンライン開催
- ・時差もあるため, 開催時間は日本時間15:30-22:00
- ・1日2レクチャー, ポスターセッション・オープンディスカッションの時間もある
- ・詳細情報は以下のホームページで随時更新

<https://wcp2-ap.eng.hokudai.ac.jp/hypermaterials/ish/>

### 2) Materials Research Meeting 2021 (MRM2021)シンポジウムのお知らせ

木村薫 (東大新領域)

- ・2021/12/13-17にパシフィコ横浜で開催
- ・分野横断型の国際会議, シンポジウムは36程度
- ・Hypermaterialsをテーマとしたシンポジウムが行われる
- ・一般講演のアブストラクト締切は2021/5/10

## 9. 代表・運営員の挨拶

- 佐々木先生, 東先生, 北原先生から退任の挨拶があった.